



お彼岸とは……

お彼岸とは、サンスクリット語（仏教発祥地インドの言語の一つ）の、パラミター（波羅蜜多）を訳した言葉です。また仏教では、お彼岸は悟りの世界を意味し、煩惱に満ちたこちらの岸に対して極楽浄土の向こう側の岸（彼岸）を表し、毎日心がけて六波羅蜜の教えを実行する事により、その「極楽浄土へ渡れる」とされています。しかし我々凡人は日頃忙しく、この有難い六波羅蜜の教えの毎日の実行は難しいので「せめて年に2回、春と秋くらいはその教えを実行しましょう」というのが、現在のお彼岸の意味になっています。従ってお彼岸にはご家族揃ってご

先祖・先亡霊位のお墓に冥福を祈ると共に、生き続けている皆様は現在生かされていることを喜びこの教えを実行し彼岸到達をめざしたいものです。

（六波羅蜜 ろくはらみつ）

- 布施・ふせ：奉仕の心を忘れない
- 持戒・じかい：規律や人との約束を守る
- 忍辱・にんにく：不平不満を言わず耐え忍びましょう
- 精進・しょうじん：一生懸命努力しましょう
- 禅定・ぜんじょう：心を静かに保ちましょう
- 智慧・ちえ：物事を正しく判断する知恵をもつ

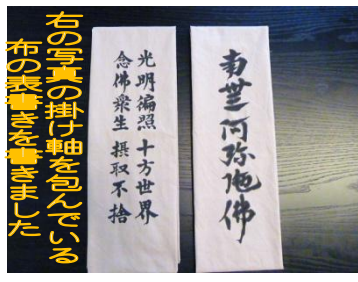
◇念仏行脚（念仏を称えながら歩く）

平成二十三年を迎え法然上人の八百年の年忌の年となり、一月から多くの記念行事が行われております。一月十一日から二十四日までは東京の浄土宗寺院を巡る念仏行脚がおこなわれ法問寺住職は念仏行脚実行副委員長として文京区・台東区・足立区・葛飾区の浄土宗寺院を行脚いたしました。さらに、一月二



十五日の法然上人の命日の日から東京増上寺より京都知恩院まで歩いて念仏行脚する行事が始まり、無事、二月二十三日には京都に到着されました。法問寺住職は増上寺から川崎のお寺まで約二十キロ程念仏行脚に参加いたしました。浄土宗八大本山のご法主の書かれた経文を携えて歩く役を仰せ

つかり、無事に川崎の一行寺というお寺まで大役を果たすことが出来ました。その衣装された経文と浄土宗最高位の方が書かれた「南無阿弥



陀仏」の表装軸を包む布の表書きは、法問寺住職内室鈴木裕子が書いた物です。行脚の途中で風雨、雪、から表装軸を守り駅伝のタスキのごとく各寺院にリリースすることが出来ました。四月一日より九日まで

えつ大法要に参加される各寺院住職を確認し行列参加させる役目」という役にて毎日出仕いたします。大門からのお練り行列は四月二日〇七時までの午前十時半と午

後一時半の二回ずつ行われます。五十年に一度の大法要に皆様もぜひお時間をつくり参拝して下さい。重要文化財の朱塗三門にも上がる事ができます。参拝したいという方は任職までお知らせ下さい。記念品をお渡しします。



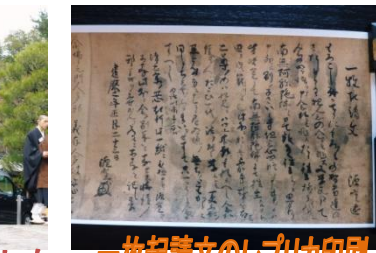
大本山金戒光明寺 御影堂

三月二日・三日に久しぶりに京都大本山金戒光明寺に行ってきました。この度、東京の詠唱会（ご詠歌の会）が発足し



戦後初の殿公開 同指定重要文化財 三解脱門 2011年3月18日(金)~4月10日(日) 500円

総本山知恩院での詠唱発表会及び大本山での詠唱奉納に参加することに、大本山金戒光明寺（通称 黒谷さん）での法然上人御忌法要の維那（法要でのリード役で鐘などを打つ）の役目



一枚起請文のレプリカ印刷

外不出の法然上人直筆「一枚起請文」を特別に拝見させていただきます。法要に出仕した東京の寺院仲間と

した。当日は小雪がちらつく寒い日で、古い木造の本堂内は凍える様な寒さでしたが二百名近い詠唱会の参加者とともに本山での御忌法要が無事に行えることが出来ました。この金戒光明寺というお寺は法然上人が浄土宗を開いて最初に比叡山を降りた地として浄土宗でも素晴らしいご遺跡とされています。又、時代劇が好きな方は興味があるかもしれないが幕末には会津藩駐屯地、新撰組関係の地としても有名なお寺です。当日は門



知り合いのお寺さんが修行中でした

もとても感激してお念を祈りました。法然上人は関東



がに京都には素晴らしいものがたくさんあることを実感させていただきました。三日の午後は三十三間堂に行き三月三日「春桃会」を見学してきました。東京でもこのような行事の開催を検討中で視察の意味を含めて拝観してきました。この一日だけ無料で



三十三間堂の内部を解放しています。久しぶりの短時間滞在の京都でしたが色々勉強になりました。

◇法問寺 花だより 鈴木裕子◇

早いもので、もう3月に入りました。気持ちは「春！」と、思っても三寒四温、待ち遠しい暖かい春、ですね。寺の境内も冬は寒々としていましたが、そんな中、気持ちを和らげてくれるのが、クリスマスローズです。



良い香りを放って、沈丁花も咲いています。そして、命の膨らみ、爽やかさをいっばいに、木蓮が空へ向かって伸びています。お彼岸が終わると、いよいよ蓮の植



え込みの時期を迎えます。新しく建っていく慈恵大病院の陰になって、朝の日差しがとつても遅くなって、心配していましたが、季節が移って、太陽が高くなってきて、大分早めになっています。今年も、是非、お盆のころから、夏の間、境内に蓮の花を……と、念じながら、3月下旬から4月頭あたり、泥んこになりたいと思います。☆住職編集後記☆ 今回の「こうみょう」は皆様にお伝えしたいことが多く2枚になってしまいました。法然上人の記念の年を迎え色々な役目が巡ってきています。無理のないところですべてお受けしております。これらを法然上人との仏縁と思いき一杯やってみようと思っております。